

農業経営部会通信

46号

今月の例会報告

一泊視察例会in中標津を開催！酪農とバイオマスの新たなかたち

農業経営部会は11月17-18日に一泊視察例会を開催しました。コロナ禍で一泊の視察例会を行うのは久しぶりとなりましたが、中標津町・別海町にて2社の視察を行い、実り多いものとなりました。

今回視察したのは(有)竹下牧場・(株)バイオマスソリューションズの2社です。17日は(有)竹下牧場を視察し、牧場での取組とゲストハウス・コワーキングスペースの取組を伺いました。牧場では実際に牛舎を見ながら自動給餌ロボットの導入やクラシック音楽を牛舎に流すなどの取組を紹介。牧場内ではキッチンを備えた建物もあり、来年発売に向けて動いているスープ作りについても簡単にご紹介頂きました。また、現在はまだ建設途中の宿泊施設も見学。「食」を通して人と人が繋がる場づくりに向けての展望をお話いただき、酪農業だけでない今後のビジョンについて参加者もワクワク感を持ちながら聞きました。さらにゲストハウスushiyado、コワーキングスペースmilkに移動して意見交換。週休2日を実現している労務面の取組など更に参考になりました。翌日は(株)バイオマスソリューションズを見学。同社では、



中標津バイオマスセンター、別海工場、別海本社の3か所を見学。中標津では乳製品製造過程で発生する廃棄物を活用した有機肥料製造やこれまで埋め立てられていた廃石膏ボードをリサイクルした肥料製造の現場を視察。別海工場にてペレット化するまで一連のラインを見せて頂きました。最後は本社にて(株)バイオマスソリューションズを含むグループ7社の経営についてや事業承継など経営者らしい意見交換を行い、十勝を飛び出した視察例会は満足感を持って終了しました。



台湾向け輸出市場について学ぶ

11月16日には仁美国際(SGM)の浜島代表をお招きし、台湾での日本食材・北海道食材の動向等についてお話を伺いました。親日で知られる台湾ですが、もちろん日本食材・北海道食材も価値があり、受け入れられる素地は十分としつつも添加物や使用する薬品などの数値面での制限が厳しい点やサンプル検査の

やり方などいざ輸出に踏み切る際にはハードルが高い点も率直に報告がありました。また、飲食店の商標についての事例にも触れ、日本の有名店が勝手にオマージュされた上、訴訟では敗訴するなど気を付けなければならない点も話されました。90分と短い時間ではありましたが、国際情勢を生々の声で知るいい機会となりました。

(今後の予定)

11/29(火) 農業を核とした十勝の観光の可能性
内閣府地域活性化伝道師 松橋 京子 氏

12/21(水) 一泊望年例会

講演 (株)そら 代表取締役CEO 米田 健史 氏

etc.....

➤ 農業経営部会今後の予定

収穫もひと段落を迎え、農業のハイシーズンが終わろうとしています。春の天候不順など芳しい条件でないところも多かったと思いますが、無事に終わった喜びをかみしめている方も多いのではないのでしょうか。いよいよ農閑期、学びの季節に入ります！